


**親子の世界**


**Holding (Winnicott)**  
精神的抱きかかえ、ほっとする雰囲気でも包み込む精神的子宮

**同主観性 (Trevarthen)**  
相手の心の状態が響くように感じて察する

**情動調律 (Stern)**  
同主観的関わりを基に、互いに響き合った行動を取る



**虐待**



**主たる虐待者**

母親	50.8%
父親	23.7%
祖父母	13.1%
その他	12.4%

**児童虐待防止法施行後死亡事例**  
(2000年11月～2003年6月)

総計	127例
4歳未満	108例 (79%)
1歳未満	48例 (38%)
0～6M	34例 (28%)
0～3M	24例 (19%)

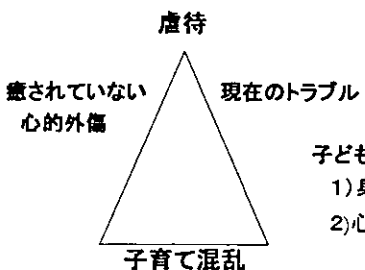
**主たる虐待者**  
実母 77例 (54%) 実父 26例 (18%)

**虐待者の年齢構成**

	10代	20代	30代	40代	50代以上
実母	5	39	29	3	1
実父	2	17	4	1	2

＝平成15年度厚生労働省雇用均等・児童家庭局＝

**虐待**



**子どもの被虐待**

- 1) 身体的外傷
- 2) 心的外傷

**トラウマ(心の傷): 関係性障害(心のすれ違い)**

1) **マイクロ・トラウマ:**  
日常生活の中での、養育者との心のすれ違いでおこる寂しさ、腹立たしさ、不信感など。 ⇒ 軽い関係性障害

2) **マクロ・トラウマ:**

虐待	a. 身体的虐待	⇒ 重い関係性障害
	b. 性的虐待	
	c. 心理的虐待	
	d. ネグレクト	

3) **累積外傷:**

- a. クロ・トラウマでも癒されないうれ積されると激しいトラウマとなる
- b. 虐待は毎日累積され、激しいトラウマとなる

**児相の非行児**  
乳幼児期からの関係性障害の累積

**最近の若者の凶悪犯罪**  
ほとんど乳幼児期からの関係性障害の累積が報告されている

**繊細な気質も持った子どもの乳幼児期**  
(特に乳児初期)の重い関係性障害  
将来精神的混乱をおこし、自閉症、アスペルガー症候群、ADHD、行為障害、人格障害、統合失調症等と同様症状を表す危険性がある

## 母性の発達

### 乳児像(Lebovici)

赤ちゃん性:赤ちゃんを前にした時の衝動

### a) 幻想的乳児像

乳幼児期、養育者にどのように育てられたかが、五感を通じて感覚的に覚えた赤ちゃん像(自分の乳幼児表象)



### 症例

乳幼児期両親から虐待を受けた母。子どもはいらないと思っていたが妊娠し、父の強い希望で産むことになった。胎動が始まった頃より、お腹が大きくなっていく自分がすごくみじめに感じ、妊婦服を拒否し、外出もできなくなった。胎動を感じ、自分のお腹の中に怪物がいるように感じた。出産後赤ちゃんを受け入れできず、虐待になった。妊娠により、虐待を受け、みじめだった子ども時代の表象世界(幻想的乳児像)が浮上し、胎児を受容できなくなり、赤ちゃんに対して虐待となった。母子介入で虐待はほとんど無くなっている。

### 症例

生後1日の赤ちゃんに母乳を与え、幸せいっぱい  
の母。「おかあさん、どんな気持ち?」「私、誰かに抱っこされ、フワっとなって、すごく良い気分です」。母は、自分の母親に幸せな、安心きった気分で受け入れてもらっていた乳児期に逆戻りした。

### 症例

乳児期から母親にネグレクトを受けた父は、初めて赤ちゃんが母乳を飲んでいるのを見て、突然に赤ちゃんを押し退け、母の乳房に吸い付いてきた。その姿勢は赤ちゃんと同じで、母は発作的に赤ちゃんを抱っこするように支えた。

幸せそうに母乳を吸っている赤ちゃんを見て、母性で満たされていない幻想的乳児像が浮上し、乳児期に逆戻りし、母の乳房に吸い付いた。その後、父はdomestic violence (DV)、虐待をするようになり離婚した。

### b) 空想的乳児像

- ・人形遊び等により、赤ちゃんに接して身に付けた感覚的赤ちゃん像
- ・結婚相手との・妊娠中の空想的赤ちゃん像、空想の世界で作った赤ちゃん表象



### 症例

23歳、母。レイプされて妊娠。妊娠7ヶ月で中絶できなく、しかたなく出産。全く受け入れできなく、乳児園に預けた。

レイプによる空想的乳児像の混乱による養育拒否と思われる。

### c) 現実の乳児像

赤ちゃんを目の前にした時の心に映った赤ちゃん像



### 症例

父は初めての赤ちゃん誕生を楽しみにしていた。唇裂・口蓋裂を持った女兒が誕生した。口唇にテープを貼り、母に気付かれないようにして、父に見せた。

父は「こんな可哀そうな子は育てれない。家内にも見せれない。死んだことにして欲しい。」と言う。

「手術すればきれいによくなること、赤ちゃんは必死に生きようとしている」と説明しても聞き入れない。

三日目母に見せると、母は全面的に受け入れた。母の説得で、父も受け入れできるようになった。現在6歳。父は「この子に申し訳ないことをした」と後悔し、非常に可愛がっている。

父は豊かな幻想的乳児像、空想的乳児像を持っていた。一時的に現実の乳児像の混乱をおこしたが、母の支えで克服できた。

### 出産前後の母の心 (Stern)

#### a) 生命—成長のテーマ:

無事に出産し、赤ちゃんを元気に、たくましく育てれるか

#### b) 基本的関係性のテーマ:

赤ちゃんとの関わりを十分に持ち、心豊かに育てることができるか

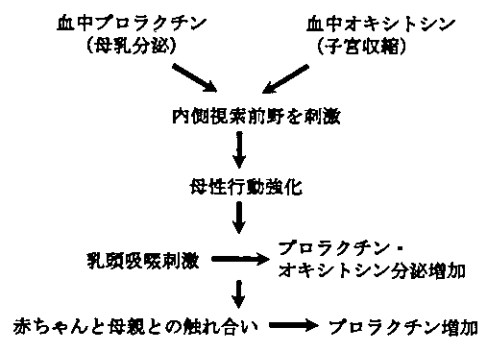
#### c) 援助基盤のテーマ:

子ども時代の、また現在、これからの自分と自分の母親との関係、夫との関係、他の自分を支えてくれる人物との関係をどのように編成するか

#### d) アイデンティティ再編のテーマ:

母として、社会人として、今後自分がどう生きるか

### ホルモンの影響 (大西)



### マタニティブルーズ増悪因子

- 1) 幻想的乳児像・空想的乳児像・  
現実の乳児像の混乱
- 2) 温かい支えが無く、辛い思いをしている

### 親子関係の発達

母親、父親は子どもを見る時、客観的な子ども（ありのままの子ども）を見ておらず、主観的な子ども（自分の心の目（表象）を通して見た子ども）を見ている。

### 母乳保育の促進(強制はしない)

#### 症例

母乳を与える毎に体がゾクッとし、発作的に赤ちゃんを突き飛ばし、首を絞めようとしたこともある。

母は小・中時代に乳房に触られる性的虐待を受けていた。

赤ちゃんが乳房に触ることで、性的被害者表象であるトラウマが浮かび上がり、赤ちゃんを拒否した。

### 母親の原初的没頭(Winnicott)

全てを忘れて献身的に子どもに接し子どもとの世界を楽しむ  
(Winnicott)

意味痛風(Cramer)



### 新生自己感(Stern) (生後二ヶ月までに基礎ができる)

(感覚統合、情緒統合をして人間として生きることの安心感が身に付く)



### 新生自己感

子宮内環境を覚えている？ holding(抱きかかえ、Winnicott)



### 中核自己感(Stern) (生後3~7ヶ月に基礎ができる)

(自分もいつも母親と共に居る。母親はいつも守ってくれると言う安心感が身に付く)



### 主観的自己感(Stern) (8~15ヶ月に基礎ができる)

(自分にも他者にも心があることを覚え、両主観的関わりができ、情緒を共有できる)



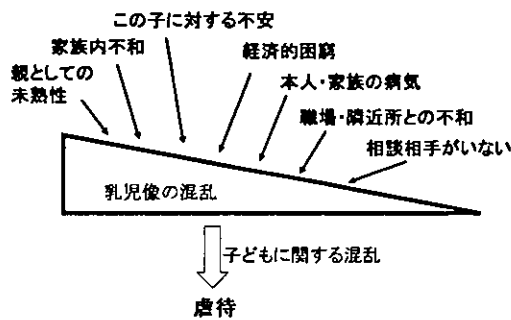
### 父性の発達

- 1) 超音波で胎児を見せる
- 2) 母のお腹に触らせ、胎動を見せ、触らせ、胎児心音を聞かす
- 3) 立会い分娩
- 4) 出生直後から赤ちゃんに積極的に触れさせる

### 周産期、母親父親の子育て混乱

- A) 出産前後の父母は全員何らかの不安を抱えている  
 B) 現在何かトラブルをかかえ、心の傷を受けている
- 1) 子どもの病気
  - 2) 親の未熟性
  - 3) 父の非協力、家族内での不和
  - 4) 経済的困窮
  - 5) 本人・家族の病気
  - 6) 職場・隣近所との不和
  - 7) 相談相手がいない
- C) 幻想的乳児像、空想的乳児像、現実的乳児像の混乱

### 周産期、母親父親の子育て混乱 (全ての父母は出産前後種々の不安を持っている)



### 子育て混乱父母に対する援助方法

- 1) 隣近所、職場等社会全体の温かい支え。
- 2) holding (Winnicott): 精神的抱きかかえ、間主観的関わりで和やかな、信頼と安心感の雰囲気を作る。
- 3) 修正愛着体験 (Stern): 何でも遠慮なしに話せる雰囲気の中で、子供時代に体験できなかった甘えを体験させる。
- 4) 内省的自己養成 (Fraiberg): 子供時代の辛かった、抑圧された葛藤を、情緒的に思い出すままに語る。
- 5) 親子精神療法 (Cramer): 父母の過去、現在の嫌な、辛い、腹が立つ、人物、事柄を胎児、赤ちゃんに投影し、ありのままの子供が見えなくなり、幻影を見て、混乱をおこしていることに気付かす。
- 6) 赤ちゃんとのふれあいや胎児エコーを見せる。母乳保育、カンガルケア、タッチケア、eye to eye contact、抱っこ、等を。感覚的に自分の赤ちゃん時代の表象が浮上り、赤ちゃんとの暖かい感覚を取り入れ、自分の赤ちゃん表象を作り直す。

### 子育て混乱父母に対する援助



- 1) 病院スタッフ、保健師は間主観的関わりをし、里帰りお産の時の優しいおばあちゃん的作用をする(ドゥーラ効果)
- 2) スタッフにholdingされ、おばあちゃん転移
- 3) 修正愛着体験

### 子育て混乱父母に対する援助

- 4) 母は赤ちゃんとの世界に没頭し乳幼児期の表象世界が浮かび上がる

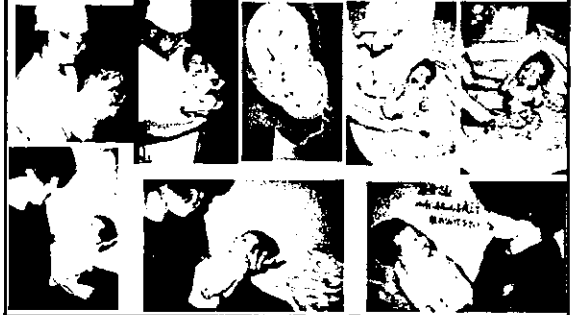


**症例**

子ども時代に虐待を受け、3歳児Aを虐待する母。  
 楽しい気分の際は、Aがいたずらしても優しく受け入れるが、嫌な気分の際はAの少しのいたずらでも我慢できなく、激しく怒鳴り、叩く。その時の気分により、楽しい幼児期表象が浮上したり混乱した幼児期表象が浮上したりしていた。  
 内省的自己の養成で虐待はほとんど治まっている。

**子育て混乱父母に対する援助**

- 5) 母は乳幼児期の表象世界が浮かび上がる
- 6) 精神的に自分の乳児期に逆戻りをする
- 7) 赤ちゃんとの満たされた世界を取り入れる
- 8) 外傷的表象世界を修復する



**母親の原初的没頭(Winnicott)**

全てを忘れて献身的に子どもに接し子どもとの世界を楽しむ  
 (Winnicott)  
 意味帰属(Cramer)



**赤ちゃんとの世界に没頭**

母の赤ちゃん時代の楽しい表象世界が浮上し  
 楽しい神経回路網(表象)が強化される



**赤ちゃんとの世界に没頭**

母の赤ちゃん時代の楽しい表象世界が浮上し楽しい神経回路網(表象)が強化される



**赤ちゃんとの世界に没頭**

母の赤ちゃん時代の楽しい表象世界が浮上し楽しい  
 神経回路網(表象)が強化される



**子育て環境調査(妊婦用1)**

A)現在

- 1) 何でも相談できる医師： いる いない
- 2) 今回の妊娠について： 嬉しい 嬉しいくない
- 3) 今の子ども： 1) 人 可愛い 可愛くない 時々うるさくなる
- 4) 生まれた赤ちゃんを愛しみながら育てれると思いますか： 思う 思わない
- 5) 家事・育児などに関する夫の協力： 十分 不十分 全く無し 夫不在
- 6) 夫と自分の子どものことを： 良く話し合う 時々話し合う 全く話し合わない
- 7) 夫とお腹の中の赤ちゃんのことを： 良く話し合う 時々話し合う 全く話し合わない
- 8) 今頃になること： 無 育 養育的なこと 子どものこと 夫のこと あなたの父親のこと
- 9) 夫の父親のこと 夫の父のこと 養育のこと 養育のこと その他( )

B)過去なり、夫は子ども時代をどのように過ごしたでしょうか

- 1) お母さんの子どもの時
 

父親： やさしかった こだわった きびしかった 無手になってくれた 無手になってくれなかった(子ども時代)

母親： やさしかった(あなたが 養育の時)

姉妹： やさしかった(あなた) きびしかった 無手になってくれた 無手になってくれなかった(子ども時代)

兄弟： やさしかった(あなた) きびしかった(あなた)

兄弟姉妹： ( ) 色々( ) 誰によく遊んだ 誰に遊ばなかった(守りよくした 父親以外の人が育てられた： 養育(父方 母方) 養育(父方 母方) 無助(子どもの側)

子ども時代： 楽しかった 辛いことが多かった 友達とよく遊んだ 友達とよく遊ばなかった 人形遊びをよくした(赤ちゃんの遊びをよくした) 遊ばなかった( )
- 2) お父さんの子どもの時
 

父親： やさしかった(あなた) きびしかった(あなた) 無手になってくれた(あなた) 無手になってくれなかった(あなた)

母親： やさしかった(あなた) きびしかった(あなた)

兄弟： やさしかった(あなた) きびしかった(あなた)

兄弟姉妹： ( ) 色々( ) 誰によく遊んだ 誰に遊ばなかった(守りよくした 父親以外の人が育てられた： 養育(父方 母方) 養育(父方 母方) 無助(子どもの側)

子ども時代： 楽しかった 辛いことが多かった 友達とよく遊んだ 友達とよく遊ばなかった 人形遊びをよくした(赤ちゃんの遊びをよくした) 遊ばなかった( )

C) その他( )

**子育て環境調査(妊婦用2)**

- 1) 母子家庭：(父親： 死亡 離婚 未婚)
- 2) 再婚家庭：母・ 子供( ) 入道して 子供( ) 人前夫の元へ 子供はいない  
父・ 子供( ) 入道して 子供( ) 人前妻の元へ 子供はいない
- 3) 妊娠中の生活指導を： よく守る あまり守れない 全く守れない
- 4) 父親の支援： 毎日 時々 無し(仕事の都合 支援を嫌がる)
- 5) エコー機：
  - 1) 胎児の姿を見て： 喜ぶ 喜ばない 見ようとしな
  - 2) 週数に応じて胎児の成長を： 喜ぶ 喜ばない
  - 3) 父親はエコーを見て： 喜ぶ 喜ばない 見ようとしな
- 6) 胎動：母・喜ぶ あまり喜ばない 無関心  
父・喜ぶ あまり喜ばない 無関心
- 7) 治療が必要な時： 積極的に治療する 消極的に治療する 治療を拒否する
- 8) 分娩時夫が： 妻の世話をよくする しぶする 全くしない
- 9) 立ち会い分娩： 非常に感動する 感動する 少し感動する 無表情 拒否
- 10) 出生直後の赤ちゃんの抱っこ：母・ 喜ぶ あまり喜ばない 拒否  
父・ 喜ぶ あまり喜ばない 拒否
- 11) 赤ちゃんの病氣： 無い 有る( )
- 12) その他( )

**調査結果**

調査妊婦 774名 (1998年8月～2003年10月)

介入事例:70例(9%)  
(うち小児科医の介入:22例(3%))

追跡できた65例:全員虚特無し

**保健師の取り組み**  
(妊婦届け時チェック)

調査妊婦301名(2003年4月～2004年3月)

介入事例:32例(11%)  
(小児科医の介入1例)

調査結果表： 調査対象日: H 年 月 日 現在の妊娠週数 週 日 胎 子  
調査対象：(夫、子ども、人、夫の父、夫の母、その他) ) 調査主  
今回の妊娠でどのようなことを学びましたか？ 意識のつわり、産前・産後の恐れ、産後、妊娠中絶症、産後鬱、  
合併症( )、その他( )  
今までの妊娠・出産の状況についてお話しします。子どもの体質がどうですか？ 産前・産後、妊娠中絶症、産後鬱、  
帝王切開、胎盤剥離、前置胎盤、不妊症、その他( )  
妊婦病 妊娠中絶、産後の心、産後鬱、産後鬱、その他( )  
子ごころ、飲まない、飲む( )、産後鬱、産後鬱、その他( )  
中村直史の妊娠検査について、参加したい、産前中の検査で受ける、検査の機会を参加できない、  
その他( )  
出産前後に産後鬱を予定していますか？ いいえ、はい( ) 月経痛、産後鬱、その他( )  
今回の妊娠についてどう感じますか？ うれしい、やうれしい、どちらともいえない、やうれしくない、うれしくない  
生まれたあと、赤ちゃんとの生活を想像してみたいですか？ 思う、やや思う、どちらとも思えない、やうれしくない  
あなたが懐いてくれる時に抱っこして欲しい人か産後の心配を付けて欲しい人か、夫、友人、実家、産科の人  
産科の医師、産科看護師、産科士、インナーナース、産科士、その他( )  
今心配なことがありますか？ 無し ある( ) 精神的なこと、出産に関すること、お金の子どものこと、  
上の子どもの育児、夫との関係、ご自身の健康、あなたの父親のこと、夫の母親のこと、  
産後鬱・産後鬱のこと、世帯のこと、その他( )  
産後鬱・産後鬱に対する夫の協力： 十分ある、時々ある、あまりない、全くない、夫不在  
今の子どもについてどうですか？ かわいい、かわいくない、時々喜ぶ、時々怒る、時々泣く  
夫と上の子どものことを： よく話し合う、時々話し合う、あまり話さない、全く話さない  
夫とお腹の中の赤ちゃんのことを： よく話し合う、時々話し合う、あまり話さない、全く話さない

\*よろしければあなたの自身の子どもの頃についてもお話し下さい  
あなたの父親、お話しください。こだわった、きびしかった、無手になってくれた、無手になってくれなかった、  
話し合いが無くたっては話し合いました。父親以外の人が育てられたことがあ  
る子どもの頃、兄弟姉妹と一緒に遊んだ、守りよくした、友達とよく遊んだ、友達とよく遊ばなかった、人形遊びをよくした

**症例**

初産6ヶ月の母。つわりが始まった頃より頻りに流産の夢を見る。母の父親GFはアル中で、母親GM に対してDVがあり、GFが、おまを妊娠中、GMのお腹を蹴って、おまは早産児で生まれ、非常に心配した」と、いつもGMから聞かされた。

GMに聞かされてきた、自分の傷ついた出生時の表象(幻想的乳児)が、胎児に投影して流産の夢になっていた。

母一子精神療法で、母は投影に気づき、悪夢は無くなった。

**症例**

初産で5ヶ月の母。「子どもが生まれると母親だけが忙しく損をする。産みたくないけど夫が喜んでるので仕方ない」と言う。母は子ども時代ネグレクトを受けていた。

スタッフがholdingし、数回子ども時代の辛かった話を聞いた。新生児や1か月、3ヶ月の赤ちゃんの反応を見せ、抱っこさせた。抵抗無く、帝王切開で出産した。父親は付きっきりで母の看病をした。現在5ヶ月。「この子を産んでよかった」と、愛情たっぷり育てている。

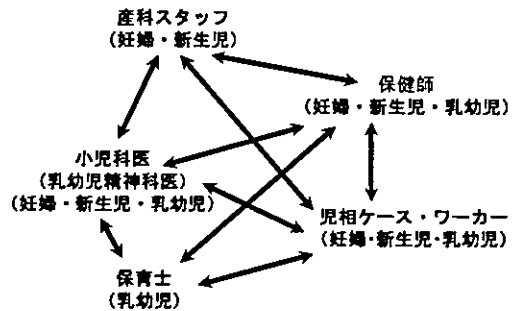
妊娠により自分の乳幼児期の外傷的表象世界(幻想的乳児像、空想的乳児像)が浮上し、出産を拒否した。スタッフの介入で表象世界を修復し、赤ちゃんを受容できるようになった。

### 症例

妊娠5ヶ月初産。頑固に中絶を希望。父は子ども時代に激しい虐待を受けていた。「生まれた子どもを虐待しそうで、怖いから子どもはいらない」と言う。スタッフのholdingで、出産を承諾した。父が分娩に立ち会って出産、涙を流して喜んだ。その後辛かった子ども時代の話をし、内省的自己の養成をした。

子どもは伸び伸びと成長し、4歳になった。父は妻の妊娠で、子ども時代の外傷的表象(幻想的乳児像)が浮上し、虐待を恐れて出産を拒否した。スタッフの支えで表象世界を修復し、赤ちゃんを受け入れるようになった。

### 周産期からの虐待予防連絡網



### 症例

妊娠4ヶ月目、父母同伴で、妊娠中絶を希望して産婦人科を受診した。超音波で胎児を見せると父母共感涙した。チェックリストで父母共同問題点が浮かび上がってきた。1週間後再来し、出産することにした。

母18歳。父親に愛人がおり、家庭内不和の中で育ち、高校入学後夜間徘徊し、非行に走り、高校を中退した。

父17歳。アルコール依存症の父親で家庭内不和の中、小学校2年の時、母親は自殺した。親母に反抗し夜間徘徊し、中学校卒業後土木工事をしていた。

二人は暴走仲間知り合い妊娠した。保健師、小児科医も面会し、保健師は家庭訪問をして支えた。助産師、看護師、保健師に色々なことを尋ねるようになり、二人の辛かったことを話そうになった。父が18歳になり結婚した。父立会い分娩をし、出産、涙を流して喜んだ。母も涙を流して喜んだ。助産師、看護師の支えで、父母共赤ちゃんの色々な反応を見て喜んだ。退院後も祖父母から支援をほとんど受けることができなかった。産婦人科へ頻りに来院させ、助産師が頻りに電話訪問をし、保健師が家庭訪問をして支えた。毎月センターへ乳児健診に来させ、保健師全員が「上手に育てている。可愛い」と誉め、父母も喜んだ。父は顧問土木工事で働き、母は夜間飲食店で働いた。父母は喧嘩をしながらも、児は順調に育ち、1歳から保育所に通っている。現在3歳。母は日中の仕事に専念、児は順調に発育している。父母に現在の生活に対する混乱、幻想的乳児像、空想的乳児像に対する混乱があった。スタッフの優しいおばあちゃんのかかわりで、父母は落ち着いて子育てができていく。

### 症例:30歳母

7ヶ月初産。未婚。妊娠中絶手術を希望し来院したが手術不可能を伝え、しぶしぶ出産することになった。赤ちゃんに心が無い、相談相手もいないようだ。保健師も出産届けで未婚であること、チェックリストで、母に対する支えがない、幻想乳児、空想的乳児の混乱があるなどあり、ハリスク妊婦と把握していた。保健師が母へ電話を掛けたが「心配なことはない」と言う。

無事出産。eye to eye contactがない、抱っこをしなく、話しかけない、テレビばかり見ている。入院2日目、母は相母と喧嘩をした。看護師、助産師が赤ちゃんの抱き方、可愛さを説明し沐浴も何とかできた。混合栄養で8日目退院した。10日目保健師が電話すると、沐浴をしていないと言う。すぐ家庭訪問をし、沐浴等をした。児相にも連絡を取った。その後保健師が2-3日毎に家庭訪問をし、母と共に沐浴させた。

14日目産婦人科病院で小児科医が診察し、赤ちゃんの色々な反応を見せた。

「産んでよかった」と言った。

3日目より、完全母乳保育となり、抱っこ、目を見詰めて話しかけをし、沐浴が上手にできたし、「可愛い」と言いだした。

現在4ヶ月、よく笑い、アウー言葉あり、母も楽しみなが育てている。「この子は、私を見る目と、よその人を見る目と、目付きが違う」と言う。

隔週保健師の家庭訪問、病院受診は減っている。少しずつ、寂しかった子ども時代のこと、今後の育児不安について話しかけている。

幻想的乳児像、空想的乳児像の混乱、現在の育児不安等、色々な悩みが想像される。産婦人科スタッフ、保健師が「優しいおばあちゃん的関わり」を持ち、holdingしたため、愛情豊かな母親に成長している。

### 症例:父43歳、母40歳両親とも統合失調症

妊娠し、精神科、産科が連絡を取り、母親の薬を調整した。精神担当、母子担当の保健師が家庭訪問をして支えた。無事女児出産。父母共非常に喜んだ。沐浴等なんとかできたし、7日目退院。精神科医師、心理士、ケースワーカー、町保健師、福祉ケースワーカー、児童相談所小児科医、保健師、ケースワーカーが話し合った。いつでも乳児園に入所できるように準備をした。週1回、精神科病院へ通院し、町保健師、福祉ケースワーカーが週1回ずつ、家庭訪問をした。最初は父母に、赤ちゃんを取られるという警戒心があった。

1ヶ月目、児相の医師、保健師が家庭訪問をすることの了承を受けた。医師、保健師も週1回訪問し、体重を量り、健診をした。赤ちゃんの茶漉らしさ、可愛さを見せながら、抱き方を説明した。哺乳方法、抱っこ方法を徐々に説明をした。上手に哺乳できた。息が止まりかける(しゃっくり)、痙攣がある(モロー反射)、ミルクを吐いた(溢乳)、後頭部に出血している(血管腫)等、すぐ電話が掛かってくるようになった。その都度家庭訪問をし、心配ないことを説明した。母は上手にあやすようになり、3ヶ月、笑ってアウー言葉が出た。4ヶ月、寝返りする。離乳食が始まるのでヘルパーにも支援してもらい、離乳食等の支援を始めた。父母共自慢げに赤ちゃんの可愛さを話した。関連スタッフは定期的に連絡を取って親支援を続けている。現在5ヶ月、順調に発育している。父母共統合失調症の症状も落ち着いている。最初、母子が同主観的関わりができなかったが、スタッフの温かい支えで子どもは問題なく育っている。いつでも乳児園に預かれるように、準備は整えている。

### まとめ

- 1) 出産前後、父母は特殊な精神状態になっておる
- 2) 産科スタッフ、小児科スタッフ、精神科スタッフ、保健師、保育士、児童相談所、ケースワーカーが、十分に連絡を取り合う
- 3) 里帰りお産のおばあちゃん的関わりを持つ
- 4) 子育て混乱、虐待の多くは予防できる
- 5) 将来の非行、犯罪、精神的混乱も予防できる
- 6) チェックリストによる周産期からの虐待予防は、非常に効果があると思われる
- 7) チェックリストを使用する場合、リスク妊婦を窮地に追い込み、混乱を増悪さす危険性があるため、その落とし穴に陥らないように、スタッフは乳幼児精神保健の知識を十分に身につけてはいけない



## 澤田先生コメント（パワーポイント資料の解説）

私は子育て混乱に限定してお話します。児童相談所の立場からいけばいまそこをいちばんやらないといけない。児童相談所は虐待の通告でキリキリ舞いをしています。ものすごくあるのです。虐待防止法が出来て、すべての人は疑いをもてば通告しなくてははいけない。虐待ではなくてもそれに近いものがいっぱいある状態です。これはマニュアルではなくて、私たちが出産に焦点を合わせた虐待予防をどういう意味でやっているのかというのを説明をしてほしいということであちこちから呼ばれますから、それに使ったスライドをご紹介します。

いまご存じのように虐待予防で有名なのは、厚生労働省を通じて全国の保健所に送っているのは、南多摩保健所が発案された3か月健診からのチェックリストです。それから最近じわっと全国にひろまっているのが、九州大学の吉田敬子先生の1か月健診時の産後鬱のチェックリスト、それらから虐待予防をするという2つが有名だと思います。私たちは、妊娠初期から取組み、出産時をピークにし、生後3ヶ月頃迄に重点をおいて虐待予防を行っています。ダニエル・スターンは、出産のとき母親は特殊な精神状態になっており、これを母親のコンストレーションと言っています。出産前後はどの母親もすごく混乱する状態にあり、そこにいい介入をすれば混乱も予防できるといっています。私は堀内先生達と一緒に新生児をやってきましたからその経験の上にスターンの理論を取り入れ、産婦人科のドクター、保健師さんの川島さん達と一緒に周産期からの虐待予防に取り組んでいます。それについてのスライドを作っていますので、見てください。

虐待というのが、いかにみじめかということはご存じのとおりです。肉体的にでもですがこのトラウマ、精神的混乱ははかりしれないものがある。

これは最近の神経科学で、産まれたときからどんどん神経回路網ができ、3歳から10歳まで神経回路網がいちばん多くて、使われないのはどんどん消えていく。乳児期がいちばん新しいのが作られる時期ということを説明しています。科学的な面をもたないと納得していただけないので説明しています。下は赤ちゃんの5日目、2か月、1歳、28歳時のPET画像です。赤ちゃんのときは、どこの神経回路網がいちばん発達しているかということ、大脳辺縁系。だからそこに恐怖とかマイナスの情緒情動を入れないように、できるだけあたたかいものを大脳辺縁系に入れていく。そういうことが乳児のときに大切です。とくに最初の2、3か月はもっぱら大脳辺縁系ですから、そういうことを理解してもらおう。

次ぎは表層世界のことです。私がよく言うのは、神経回路網の問題ですが人間は産まれてから毎日のようにこころのカメラで写真を撮ってそれをこころの中に積み重ねていく。その1枚1枚の写真が表象であって、こころのなかの写真集が表象世界であるという説明です。赤ちゃんはしみ込むように表層世界を作っていくと説明しています。

いろいろな行動化の裏には表象がある。その裏をちゃんとつかんでいかななくてははいけないということです。親子の世界でいちばん大事なのは、ウィニコットのいうholding。言葉のない乳児期は赤ちゃんとも母親・父親の関りは心の響き合い（間主観

性・トラバーソン)であり、間主観性のうえに基づいた親子の響き合った行動(情動調律・スターン)で成り立っています。

虐待というのはどんどん増えているし、軽いものでは実母がいちばん多い。これは虐待防止法ができて2年半ぐらいの間に厚生労働省が、全国の児童相談所から集計した被虐待死亡例は127例です。6か月までが30%、3か月までが20%死亡です。しかも小児保健で問題になっているのは、6か月未満というのはこれの4倍も5倍もあるだろう。それが事故死、突然死というかたちで片付けられているだろうと言われていています。実の母親が虐待が多く若年の父母だけでなく、虐待は全年齢の父母にあります。

虐待というのは、子育て混乱の激しいのが虐待でその境目はない。お母さんでいえば過去の心的外傷と現在何らかの混乱を抱えている。子ども側から言えば虐待というのはマクロトラウマで、こういうことがあると激しい関係性障害、親子のこころのすれ違いになって、後で大変な後遺症が問題になります。虐待とはいえなくても、毎日のこころのちょっとしたすれ違いの累積外傷が大変な問題になる。非行児には関係性障害がひじょうに多い。

ご存知のように児童相談所に来るような非行児は、ほとんど乳児期からの関係性障害を持っている。それから最近の新聞に青少年の凶悪犯罪のことが色々書いてありますが、よく見るとほとんどが関係性障害の累積が報告されている。それから最近問題になっている広汎性発達障害と同じような症状を出す子どもに、乳児初期の大脳辺縁系に情緒情動の神経回路網がどんどんできていくときに、混乱を起こした神経回路網ができた場合が多いとも言われています。最近、人格障害などはアメリカの本を読むと虐待に相当することの後遺症で、人格障害という言い方はやめてPTSDとしたほうがいいのではないかと書かれています。

虐待に関係する子育て混乱のいちばんは世代間伝達ですが、言いかえると赤ちゃん性、すなわち乳児像です。幻想的乳児像というのは、父母が産まれたときから自分の親に育てられた方法が赤ちゃん時代からしみ込むようにこころに覚えた、我が子をどう育てるかという表象世界の問題です。

これは幻想的乳児像の事例です。乳児期甘えで満たされていないお父さんが生まれてすぐの赤ちゃんに逆もどりをして、赤ちゃんを突き飛ばして母乳にくっついてきました。幻想的乳児像が浮かび上がってきました。

これは空想的乳児像です。お人形遊び等で身についた赤ちゃん表象です。お腹のなかの赤ちゃんを空想してどっちに似ているだろうかという空想の赤ちゃん表象です。それがレイプされて生まれるとお腹のなかにいる赤ちゃんは恨みの赤ちゃんですから、虐待となります。次が現実の乳児像です。超未熟児で生まれると虐待が多いというのは、空想の世界で可愛い赤ちゃんが生まれると思ったら、現実の乳児像が大変なことになっていると大混乱を起こす。

いまの乳児像でやはり私がいちばん大切だと思うのは、幻想的乳児像です。それががっちり出来ていれば、さっきの唇裂・口蓋裂の赤ちゃんを見て、現実の乳児像で大混乱をおこしたお父さんがそうですが、幻想的乳児像、空想的乳児像が話を聞くとけっこううまく出来ているお父さんです。現実の乳児で大混乱を起こしてもお母さんが

しっかりしていたため、お母さんに諭されてだんだん可愛くなって、いま小学生になっていますが、子どもに悪いことをしましたとすごく可愛がっています。

これはスターンが言っているのですが、妊娠7ヶ月頃になるとお母さんは、元気な赤ちゃんが産めるか、きちっと育てれるか、母親業と仕事をどのように両立さすか等いろいろな悩みが出現し、その悩みは出産が近くなると強くなると。

これは大西先生がよく言っていますが、子宮収縮ホルモン、母乳分泌ホルモンが脳辺縁系に働きかけて母性行動を起こす。これは赤ちゃんとのふれあい、おっぱいを赤ちゃんが吸うことでよけいに母性行動が強化されるから、母乳保育は絶対に必要である。

マタニティブルーも出産時の混乱があると余計にひどくなるから、できるだけ少なくすれば、産後うつもある程度防げる。これは慶応の渡辺先生の言っていることです。

父親母親は客観的にありのままの子どもを見れない。全部主観的に見る。いわゆるこのころの目、表象をつかって見るということ。それから母乳はすすめないといけなけれども、強引にするととんでもないことが起きる。これはおっぱいに触られる性的虐待を受けたお母さんが、子どもにおっぱいを吸われるたびにギクツとして虐待をやったという例です。ウィニコットは、母親は赤ちゃんとの世界にいかにも没頭できるかが大切だと言っています（母親の原初的没頭）。没頭できるお母さんは子どもが生まれたときにすべてを忘れて、子どもとの世界を楽しむ。このような母親になれるには、母親のバックアップが絶対にいる。温かく支えられたお母さんの、この子は可愛いというこのころの目でみて、子どもの行動に意味づけをしてお母さんは赤ちゃんの世界にのめり込んでいく。

私は赤ちゃんの反応をよく使います。赤ちゃんはそり返り抱っこをすると泣く、丸くなる抱っこをするとパツと泣き止む。他のお母さんの赤ちゃんを見せて、「赤ちゃんは子宮内のことを覚えているやろう、賢いやろう」と言うと18歳ぐらいのお母さんは「ほんとう？ 賢いんや。私の子どもでもそうやろうか」「絶対にそうだから、生まれた後で試してみて」というと生まれた後もやっぱりそうだったと言って喜ぶ。こんな子はいらんと言っていたのがだんだん可愛がるようになる。赤ちゃんを使って母性を育ててゆく。

そしてまた、赤ちゃんがこういうかたちで育たないと脳辺縁系に大変なことが起こってくると説明します。

主観的自己感といってだんだん赤ちゃんは親を求めていって、これが間主観性と情動調律の典型的な例です。それからお父さんにも同じように、お腹をさわらせたり超音波で見せたりします。「この子はいらん」と言っていたお父さんに胎児心音を聞かせたら、聞こえるといってもものすごく喜んで病みつきになって心音を聞き、胎動に触れました。生まれたらすごく可愛がるお父さんになりました。

これは育児混乱を起こす父母の背景です。いま何かトラブルを抱えている（親としての未熟性、夫・家族との不和、経済的困窮、本人・家族の病気、職場・隣近所との不和、相談相手がいない等）。それと乳児像の混乱が複雑に絡んで混乱が起こってひどいのが虐待になる。現在の混乱がいっぱいあって、乳児像の混乱がベースにあり、子どもが夜泣きをすとか、かきまわす行動を取るとカッターとなってやるのが虐待。

児童相談所からみるとほとんどがそうです。そうすると理論的にいえば生まれる前から父母の混乱はわかっていますから、ここを治療する。お金が払えないというので、福祉の方に助産師さんや保健師さんが掛け合ってくれて費用を出してもらったということもあります。若年産婦だとか、サラ金に追い捲られているのをどうするか、相談相手がいないなど、大変なことです。ここを出来るだけ解決する。

乳児像の混乱は、乳児表象の問題ですから、助産師・看護師、保健師さんで治してもらおう。あたたかい母親・父親支援でずいぶん変わります。それでも混乱が残るのはいまのところ私が精神療法をやっています。

次に混乱のある母親・父親を holding（ほつとした雰囲気でも包み込む、ウィニコット）します。修正愛着体験です。スーパーの話をするとか雑談をすることで母親がほつとする。これまでがスターンのいう 8 割ぐらいになるんじゃないかと思います。あとは過去のトラウマを上手に整理するとか、投影が起こっているときは親-子精神療法をします。

もう 1 つ、すごく大切にしているのは出産前後は赤ちゃんとの触れあいです。父親に胎動をみせたり、触れさせたり、心音を聞かせると、感覚的に自分の赤ちゃん時代に逆戻りをして、その表象世界が浮かんで、赤ちゃんとのあたたかいかわりを取り入れて、自分が赤ちゃん表象を変えるとスターンなどが言っています。私はけっこう効果があると思っています。

これは具体的にいえば、病院スタッフや保健師は母親に同一化共感し間主観性でお母さんの気持ちがなんとなくわかる感覚で、里帰りお産のときのやさしいおばあちゃん的役割をする。お母さんがスタッフに holding されて、スタッフにおばあちゃん転移を起こす。そうするといろいろな雑談をしだす。私がよく言うのは、いないないばーしているお母さんは楽しい気分になっている、これを見ているみなさんも楽しい気分になっている、だけど 30 歳のご主人といないないばーをしたらどうなるのか。お母さんも見ている私たちも気分が悪くなる。同じいないないばーなのにどうして違うのか。それは表象世界の問題で、いまお母さんはここで、自分の 1 歳のころの写真が浮かび上がってこの子に接している。いわゆる子どもの前にくると母親は赤ちゃん時代に逆戻りして、その表象世界が浮かび上がってくる。混乱を起こした表象をもっている母親は混乱した気持ちで子どもに接するから虐待になる。母親に子どもとの楽しい世界を持たすことで母親の混乱した赤ちゃん表象を温かい赤ちゃん表象に変えます。

お母さんは乳児期の表象世界が子どもの前にいくと浮かびあがりますから、精神的に自分の乳幼児期に逆戻りする。赤ちゃんに満たされた世界を取り入れて外傷的表象世界を修復する。私がよく見せるのは、反り返しだっこをします。ぎゃつと泣く。こんなにしたらパツと泣き止む。それは子宮内のことを覚えている。沐浴のときに「お母ちゃん、よく見ておいてよ」と看護師さんが泣いている赤ちゃんをお湯の中に入れると気持ちよさそうな顔になり泣き止むのを見せる。お母さんにやらせる。「そうら、お母さんのお腹のなかのことをこの子は覚えている。賢い。この子をお母ちゃんが上手に育てると東大行きよ」とか、そんなバカなことを言って、それがけっこう効くみたいですね。お母さんにすごく賢く育てているとか、煽てながらやっています。

これはさっき言ったように、原初的没頭が出来るようにお母さんを応援する。ダニエル・スターンは、基本は病院内でいえばひじょうにやさしい掃除のおばさんの役割と書いていますが、日本でいえば、里帰りお産のおばあちゃんの役割です。こうすることで段々とお母さんが没頭できるようにします。赤ちゃんとの世界に没頭して、それで母親の赤ちゃん時代の表象世界が浮かび上がって、いわゆる神経回路網を変えていく。

これがチェックリストです。環境調査表（Ⅰ）の内でいちばん上が現在のトラブルです。2番目が空想的乳児像と幻想的乳児像（父親・母親）にしています。調査表（Ⅱ）は父親母親を産婦人科のドクター、助産師さんの目で見たものです。空想的乳児像、出産のときに生まれた赤ちゃんが病気をもっているかどうか、出産直後の赤ちゃんに対する父母の反応、いわゆる現実の乳児像です。特にエコーなどを時間をかけてやってもらっています。父母共エコー像を見て喜ぶかどうか。一緒にやっている産婦人科のドクターは、たばこをやめない、酒をやめない、食事制限も注意しない、なかなか言うことを聞かない、そういうお母さんは胎児虐待だから、乳児虐待もする危険性があると書いています。

調査結果ですが1040人のなかで、リスク妊婦10%でした。後で具体的に川島さんから報告してもらいますが、実は産婦人科でやりはじめたのですが、私に産婦人科医をまとめる力がなくて、自主的に協力してくださるところはいいのですが、普通の産婦人科医はちょっといそがしくてとなかなかやってくれないのです。行政として県全体を考えると、やはり行政的な立場にいる公務員としての保健師さんにやってもらうのが一番よいと思うようになりました。産婦人科で問題のある事例は全部保健師さんのところに連絡がゆきます。保健師さん達と助産師さん、看護師さんが連絡を取って実動的には家庭訪問などをしてきていますから、そこで保健師さんに妊娠届を出すときに同じチェックリストでやったらどうなるかを調べました。やはり11%でだいたい同じ率でひっかかってきますから、いま両方でやりながら突き合わせてやっています。

これが保健師さんが使っているチェックリストです。あとは事例です。これは妊娠中に流産した夢ばかり見るというのですね。よく聞いてみると、母親が自分の母親のお腹の中にいた時、自分の母親がDVの父親から蹴られて自分は早産で生まれた。お母さんから「おまえは知的障害になるのではないか、心配した」と言われて育ったひとりっこです。自分が妊娠したら幻想的乳児像の混乱で夢のなかで早産流産で苦しめられた。治療すると何もなくなりました。

これは高学歴のお母さんで公務員です。「妊娠して出産したら女性は損をする。仕事はできないし、産むつもりはなかったのにダンナが産めというから」とすごく言っていたのですが、妊娠中からよその赤ちゃんをどんどん見せていると、すごく産む気になってすごくいいお産をしました。帝王切開だったのですが、産んでよかったと言って育てています。

これは父親がものすごい虐待を受けていて、そのまま産んだら自分は虐待するから子どもはいらんというお父さんです。だけどみんなの支えで、女の子は可愛いと言って育てています。

これはいま保健師さんにずっと経過をみてもらっています。母親が18歳、父親が17歳で、両方とも家から放り出されて暴走仲間で妊娠して生まれました。もういらないとか、離婚するとか、保健師さんのところに相談に来る。いまはなんとか育てています。いまのところは問題がないのですがどうなるかわからない。アトピーがあって大変ですがちゃんと育てています。

これはあとで川島さんからお話があると思いますが、7か月で未婚で「子どもはいらん」と言い、生まれてもまったく関心がないお母さんがいました。出産の2日目に実の母親が来て大げんかになりました。保健師さんの家庭訪問でいまはすごくいいお母さんになって産んでよかったと言っています。

次は激しい統合失調症です。精神科の先生が子どもが生まれると聞いてびっくり仰天したのですが、どうしても産むというので、仕方なしに産んでもらいました。母子担当の保健師さん、精神の保健師さんがずっとかかわりをもつのですが、子どもを取られたらいけんと言ってお母さんが抱え込んでしまって、保健師さん以外には見せなくなってしまった。いろいろ工夫してもらって、ようやく1か月前に私たちが入りました。乳児院の準備をしながら、ものすごく喜んでいるから両親に育てさせてみようということでやると、すごくうまく乗ってきています。そのかわりに私の携帯にはしょっちゅう連絡がかかります。たとえば息が止まりかけていると言うので行ってみるとシャックリがあるとか、痙攣があるといいますがよく見るとモロー反射だとか、ミルクを吐いたというといつ乳とか、頭の後ろに血が出ていますというと小さい血管腫ですね。このあいだは頭を踏んだから死ぬかも知れないと言う。聞くとミルクも飲んだと言う。その後で行って見たら、お父さんが親指でちょっと触ったぐらいです。ものすごく神経質になるのです。いま6か月ではいはいをするし、けっこうお話もするし、ふつうの子よりもいい状態です。いまヘルパーに入ってもらって離乳食を始めるところです。心配なことは、あまりにもものめり込んでいますから、1歳から母子分離をするとき、この子が反抗しだしたときが山ですが、これで経験したことは統合失調症でも親子のなかを引き裂くのはいけないと思っています。

## 澤田氏のリスク票

### 表1 乳幼児期、母親父親の子育て混乱

A) 現在何かトラブルをかかえ、心の傷を受けている

- 1) 親の未熟性
- 2) 父の非協力、家族内での不和
- 3) 経済的困窮
- 4) 本人・家族の病気
- 5) 職場・隣近所との不和
- 6) 相談相手がいない

B) 乳児像 (Lebovici) の混乱

(母は赤ちゃんを前にすると、3種類の乳児象が浮び上り、赤ちゃん性(赤ちゃんを前にした時の衝動)が浮上して行動をとる。)

1) 幻想的乳児像: 乳幼児期、養育者にどのように育てられたかが、五官を通じて感覚的に覚えた赤ちゃん象。乳児期の赤ちゃん表象

2) 空想的乳児像: 人形遊び等により、赤ちゃんに接して身に付いた感覚的赤ちゃん像。結婚相手との・妊娠中の空想の赤ちゃん像。幼児期以後の赤ちゃん表象

3) 現実の乳児像: 赤ちゃんを目の前にした時の心に映った赤ちゃん象。現実の赤ちゃん表象

### 表2 子育て不安を持っている父母に対する援助方法

1) 隣近所、職場等社会全体の温かい支え

2) holding (Winnicott): 精神的抱きかかえ、間主観的関わりで、信頼と安心感の雰囲気を作る

3) 修正愛着体験 (Stern): 何でも遠慮なしに話せる人に、病院で言えば優しい掃除婦のおばちゃんのような人に、全てを受け入れてもらい、子供時代に体験できなかった甘えを体験さす。

4) 内省的自己養成 (Fraiberg): 子供時代の辛かった、抑圧された葛藤を、情緒的に思い出すままに語らす

5) 親一子精神療法 (Cramer): 父母の過去、現在の嫌な、辛い、腹が立つ、人物、事柄を胎児、赤ちゃんに投影し、ありのままの子供が見えなくなり、幻影を見て、混乱をおこしていることに気付かす

6) 赤ちゃんとのふれあい

胎児エコーを見せる、母乳保育、カンガルーケア、タッチケア、eye to eye contact、抱っこなど

表3 子育て環境調査(妊婦用1)

A) 現在

- 1) 何でも相談できる友達: いる いない
- 2) 今回の妊娠について: 嬉しい 嬉しくない
- 3) 今の子ども:( )人 可愛い 可愛くない 時々うるさくなる
- 4) 生まれた後赤ちゃんを楽しみながら育てられると思いますか: 思う 思わない
- 5) 家事・育児などに対する夫の協力: 十分 不十分 全くなし 夫不在
- 6) 夫と上の子どものことを: よく話し合う 時々話し合う 全く話し合わない
- 7) 夫とお腹の中の赤ちゃんのことを: よく話し合う 時々話し合う 全く話し合わない
- 8) 今気になること: 無 有 ( 経済的なこと 子どものこと 夫のこと あなたの父母のこと 夫の父母のこと 病人のこと 隣近所のこと 職場のこと その他 ( ) )

B) あなたや、夫は子ども時代をどのように過ごしたでしょうか

- 1) お母さんの子どもの時  
父親: やさしかった こわかった きびしかった 相手になってくれた 相手になってくれなかった 離別 死亡(あなたが 歳の時)  
母親: やさしかった こわかった きびしかった 相手になってくれた 相手になってくれなかった 離別 死亡(あなたが 歳の時)  
兄弟姉妹:( )名中あなたは( )番目 一緒によく遊んだ 一緒に遊ばなかった  
子守をよくした  
父母以外の人に育てられた: 祖父母(父方 母方) 親戚(父方 母方) 施設 その他( )  
子ども時代: 楽しかった 辛いことが多かった 友達とよく遊んだ ままごと遊びをよくした 人形遊びをよくした  
赤ちゃんの世話をよくした 忘れた 話したくない
  - 2) 夫が子どもの時  
父親: やさしかった こわかった きびしかった 相手になってくれた 相手になってくれなかった 離別 死亡(あなたが 歳の時)  
母親: やさしかった こわかった きびしかった 相手になってくれた 相手になってくれなかった 離別 死亡(あなたが 歳の時)  
兄弟姉妹:( )名中夫は( )番目 一緒によく遊んだ 一緒に遊ばなかった  
子守をよくした  
父母以外の人に育てられた: 祖父母(父方 母方) 親戚(父方 母方) 施設 その他( )  
子ども時代: 楽しかった 辛いことが多かった 友達とよく遊んだ 赤ちゃんの世話をよくした 忘れた 話したくない
- C) その他:( )



表 4 子育て環境調査 (妊婦用 2)

- 1) 母子家庭 (父親: 死亡 離婚 未婚 )
- 2) 再婚家庭: 母・子供 ( ) 人連れて 子供 ( ) 人前夫の元へ 子供はいない  
父・子供 ( ) 人連れて 子供 ( ) 人前妻の元へ 子供はいない
- 3) 妊娠中の生活指導を: よく守る あまり守れない 全く守れない
- 4) 父親の来院: 毎回 時々 無し ( 仕事の都合 来院を嫌がる )
- 5) エコー時:
  - 1) 胎児の姿を見て: 喜ぶ 喜ばない 見ようとしなない
  - 2) 父親はエコーを見て: 喜ぶ 喜ばない 見ようとしなない
- 6) 胎動: 母・喜ぶ あまり喜ばない 無関心  
父・喜ぶ あまり喜ばない 無関心
- 7) 治療が必要な時: 積極的に治療する 消極的に治療する 治療を拒否する
- 8) 分娩時父が: 母の世話をよくする しぶしぶする 全くしない
- 9) 立ち会い分娩: 非常に感動する 感動する 少し感動する 無表情 拒否
- 10) 出生直後の赤ちゃんの抱っこ: 母・喜ぶ あまり喜ばない 拒否  
父・喜ぶ あまり喜ばない 拒否
- 11) 赤ちゃんの病気: 無い 有る ( )
- 12) その他 ( )

表 5

職業: 勤務先:  
産休時期: 月 日頃  
受診病院名: 出産予定日: H 年 月 日  
現在の妊娠週数第 週, 第 子  
家族構成【 夫、子ども 人、夫の父、夫の母、その他 ( )】世帯主:  
今回の妊娠でどのようなことを言われましたか?  
☆重度のつわり ☆流産・早産のおそれ ☆貧血 ☆妊娠中毒症 ☆体重増加  
☆合併症 ☆その他 ( )  
今までの妊娠・出産の状況についてお尋ねします。☆子どもの体重が 2,000 g 未満  
☆流産・早産 ☆妊娠中毒症 ☆頸管無力症 ☆帝王切開  
☆Rh 不適合 ☆前置胎盤 ☆不妊症 ☆その他 ( )  
嗜好品 たばこ  
☆吸わない ☆吸う (1日に 本) ☆やめた  
アルコール  
☆飲まない ☆飲む ( 時々 1週間に 回 毎日 合 )

中村市主催の妊婦教室について ☆参加したい→(○をつけていただいた方には、後日案内ハガキを送付させていただきます。)

☆通院中の病院等で受ける ☆仕事の都合などで参加できない

☆その他( )

出産前後に里帰りを予定していますか?

☆いいえ ☆はい→( )月頃/

都道府県

市町村・区

今回の妊娠についてどう思いますか: 1 うれしい 2 ややうれしい

3 どちらともいえない 4 ややうれしくない 5 うれしくない

生まれたあと赤ちゃんとの生活を楽しめると思いますか: 1 思う 2 やや

思う

3 どちらともいえない 4 やや思わない

5 思わ

ない

あなたが悩んでいるときに相談にのってくれる機関や人はいますか?当てはまるもの

全てに○をつけてください: 1 夫 2 友人 3 実家 4 近所の人

5 産科の

病院 6 電話相談 7 保健婦 8 インターネット 9 保育士 10 誰もいない

11 その他( )

今心配なことはありますか?当てはまるもの全てに○をつけてください:

1 なし 2 あり → 経済的なこと 出産に関すること お腹の子どもの

こと 上の子どもの育児 夫との関係 ご自身の健康面について あなたの

父母のこと 夫の父母のこと 隣近所、親族との付き合い方 仕

事のこと

その他( )

家事、育児などに対する夫の協力 1 十分ある 2 時々ある 3 あまり

ない 4 全くなし 5 夫不在

今の子どもについてどうですか 1 かわいい 2 かわいくない

3 時々うるさくなる

夫と上の子どものことを 1 よく話し合う 2 時々話し合う 3 あ

まり話さない 4 全く話さない

夫とお腹の赤ちゃんのことを 1 よく話し合う 2 時々話し合う 3

あまり話さない 4 全く話さない

\*よろしければあなた自身の子どもの頃についてもお聞かせください。

あなたの父母: やさしかった こわかった きびしかった 仕事が忙しく  
てあまり一緒に遊ぶことはなかった

幼い頃に父母が亡くなった又は離れて暮らした 父母以外の人に育  
てられたことがある

子どもの頃: 兄弟姉妹と一緒によく遊んだ 子守りをよくした 友達とよく遊んだ

ままごと遊びをよくした 人形遊びをよくした

### Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

#### 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
原田正文	現代の子育て事情とグループ子育ての必要性	子育てサークルネット支援事業 報告集	国立総合児童センターこどももの城	東京	2004年	30-31
原田正文	子育て現場の変遷と専門職への期待 — 子育て実態調査から—	『母と子の健康教育、妊産婦の予防保健相談、子育て支援活動』(監修: 中林正雄)	ライフ・サイエンス・センター	横浜	2005年	(印刷中)
原田正文	単著	子育ての変貌と次世代育成支援 — 「兵庫レポート」と思春期精神科臨床の視点—	名古屋大学出版会	名古屋	2006年3月	出版予定
櫃本真幸編		「虐待予防へ分娩機関からの発信」～特に妊娠・出産期(1～2ヶ月)における虐待予防対策～	シーズ		2004年	

#### 雑誌

著者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
原田正文	現代日本の子育て実態と親の主体性を伸ばす支援に関する研究	家庭教育研究所紀要	第25号	PP. 5-12	2003
原田正文、他	児童虐待を未然に防ぐためには、何をすべきか—子育て実態調査「兵庫レポート」が示す虐待予防の方向性—	『子どもの虐待とネグレクト』	第6巻1号、	pp.14-22	2004

原田正文	ほんの20年の間に、子育て現場はこんなにも大きく変化している！	月刊『保健師ジャーナル』 (医学書院)	第60巻 第1号	PP. 70-74	2004
原田正文	まったく子どもを知らない」ママ親になる — 子育てプログラムがいま必要になっている —	月刊『保健師ジャーナル』 (医学書院)	第60巻 第2号	PP 178-181	2004
原田正文	激化する子育て競争を色濃く反映する親子関係	月刊『保健師ジャーナル』 (医学書院)	第60巻 第3号	PP 284-288	2004
原田正文	乳幼児期の不適切な子育ては、キレやすい子を育てる	月刊『保健師ジャーナル』 (医学書院)	第60巻 第4号	PP 398-402	2004
原田正文	世界に誇る日本の乳幼児健診をリニューアルしよう！	月刊『保健師ジャーナル』 (医学書院)	第60巻 第5号	PP 494-498	2004
原田正文、服部祥子、他	子育て実態調査「兵庫レポート」が示す子育て支援の方向性	大阪人間科学大学紀要	第3号	PP. 47-54	2004
原田正文	はじめから完璧な親なんていない！	月刊『灯台』	No. 5 2 4	PP. 37-39	2004
原田正文	日本の子育て現場の、ここ20数年間の大きな変貌を映し出す「兵庫レポート」	月刊『保健師ジャーナル』 (医学書院)	第60巻 第6号	PP. 600-605	2004
原田正文	子育て実態調査から浮かび上がった子育て支援の方向性 — 「大阪レポート」から23年後の調査が描くもの —	月刊『助産雑誌』 (医学書院)	第58巻 第7号	pp. 9-12	2004
原田正文	父親が変わっている!! — 育児によく参加・協力している父親たち。しかし、…… —	月刊『保健師ジャーナル』 (医学書院)	第60巻 第7号	PP.706-711	2004
原田正文	「人づきあい」が得意ではない母親も参加しやすい子育てサークル	月刊『保健師ジャーナル』 (医学書院)	第60巻 第8号	PP.812-816	2004